



2015～16 年度  
国際ロータリー会長  
K. R. ラビンドラン

# Weekly Report Niigata



2015～16 年度  
新潟ロータリークラブ会長  
竹石 松次



世界へのプレゼントになろう

2015～16 年度 国際ロータリーのテーマ

新潟 RC9月第 2 例会 (2015.9.8) No.3102

## (1) ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

## (2) 竹石 松次 会長挨拶

杉本鉞子 明治七年 (1874) ～昭和二十五年 (1950)

明治維新直後、長岡市 (旧古志郡川崎村) で家老職だった父、稲垣平助、母、金の娘として誕生した。男子二人、女子八人の子たぐさんの家系で、六女は鉞 (えつ) と命名された。家にいたのは兄平十郎と姉の二人で、父のほか厳しい躰の祖母や母と乳母らで育てられた。

幼少の頃から四書 (大学、中庸、論語、孟子) を学び、学問の基礎を学んだほか、母や祖母からは礼儀作法、裁縫、機織り、料理、茶道などを学んだ。父平助は旅館業や印刷業などを興すが武家の商法で長続きはしなかった。

子供の教育に熱心であった平助は、明治四年、息子平十郎を伴って上京し親戚を頼って息子 (名前を央＝なかばに改名) を慶応義塾に入学させるが、勉強に身が入らず結局は長岡に戻った。央二十一歳、鉞七歳であった。央は、再び上京し、明治十八年、明治政府の軍隊を務めた後一攫千金の夢を実現するためアメリカ行きを決行する。しかし、思い通りには行かずアメリカで路頭に迷うこととなった。この時、偶然出会った杉本松雄に助けられ、人柄に惚れたことで妹の鉞を嫁がせることにした。親族会議で決定したとは言え人間の運命を変える一瞬は鉞にとっては如何様な感じであったのか。この時、杉本松雄は二十五歳、鉞子十四歳であった。

この時から花嫁修業が開始された。まずは語学の勉強からと言う訳で、東京の女学校に通い英語を学ぶことからスタートした。学校は、ミッション・スクール「海岸女学校」(後の青山学院) で、寄宿舎生活をしながら英語は勿論、国語、漢文、日本外史、音楽などの教育が施された。この学校在学中に聖書を学んだ鉞子は、キリスト教の洗礼を受け、その後の彼女の人生に大きな影響を与えることとなった。この学校に続いて東京英和女学院で四年、都合六年間のミッション・スクールを終えた。卒業後は、五年間東京の小学校に奉職することとなった。

そして、明治三十一年四月、いよいよ二十代半ばの鉞子は、横浜からアメリカの客船に乗って未来の夫となる杉本松雄が生活するアメリカに旅立った。

船旅で三週間ほどかけてサンフランシスコに到着、次いで大陸横断鉄道に乗ってオハイオ州シンシナティに向かっ

た。一週間アメリカ大陸を走ったあと目的地のユニオン駅に到着、そこで初めて杉本松雄と初対面の挨拶を交わした。

松雄は、明治二十九年 (1896) サンフランシスコからシンシナティに移り日本の工芸品や雑貨店を経営していた。

松雄の顧客でもあった富豪一家の好意でアメリカ生活をスタートさせた鉞子は、生活を共にしたほか、フローレンス・ウイルソンという文学好きの女性と親しくなり、やがて生涯の友となる。この地で花野、千代野の姉妹が誕生、十二年に及ぶ米国生活も順調に続いていたが、取引上のつまづきから再建への道を辿るため、妻と子供二人は一時日本に戻ることになった。不幸は重なり突然の病気で夫松雄が急死の知らせを受けることになった。

思いがけぬ事態に遭遇、自立を迫られた鉞子は、東京で英語教師の職などで子供二人を養育するが自由で闊達な米国生活で育った二人の娘が日に日に消沈する姿に失望した鉞子は、大正五年 (1916) 一家での再渡米を決心した。二人の子供をニューヨークの学校に通わせる一方、自分は日本を紹介する文章を新聞や雑誌に投稿する。やがて、半生を綴った「武士の娘」が雑誌に掲載され、このことが切っ掛けとなり、作家で詩人のクリストファー・モーレーの目にとまり大正十四年 (1925) 出版され好評を博した。

アメリカと日本を往復した鉞子の目を通した[武士の娘]は、当時未だ日本を紹介する本が少なかつただけに東洋の国の異国文化吸収を望んでいた人々から絶賛されることとなった。その後、フランス語、ドイツ語、デンマーク語など七か国語に翻訳された。

その後、鉞子は、大正九年 (1920) から七年間、コロンビア大学で日本語と日本文化を教える講師となり、その後、次女の千代野の娘婿で福沢諭吉の孫にあたる清岡暎一に引き継がれた。暎一は結婚祝いにより父清岡邦之助から資金を得て、昭和五年から二年間コロンビア大学の非常勤講師となり「日本語」「日本の歴史と文化」を教えた。

晩年の鉞子は、太平洋戦争の中で両国の狭間で苦勞するが、日米の友好のために尽力する。そして、昭和二十五年 (1927) 娘の清岡暎一邸で七十六年の生涯を終えた。

### (3) ゲストの紹介・ご挨拶

・2004～05年度一年交換学生

Adam Young-Valdovinos 君

### (4) ビジターの紹介・ご挨拶

- ・Dr. Bockhold Wolfgang (Friedberg RC)
- ・木村良君 (東京銀座RC),
- ・尾田一雄君 (新発田城南RC)

### (5) ロータリーの友紹介 (山田眞委員長)

ロータリーの友英語版が11月発行予定です。1冊500円です。お問い合わせ、ご注文は10月14日までに新潟RC事務局へお願いします。

### (6) 前年度決算報告

- ・安藤 栄寿直前幹事より前年度決算報告
- ・柴田 史郎会計監査より監査報告

### (7) 委員会報告

- ・熊高社会奉仕委員より「あしなが事業」実施報告

9月6日(日)交通遺児のご家族と一緒に白根グレイプガーデンへ参りました。曇りから雨の生憎の天候でしたが、ご家族9名、新潟クラブより17名の参加で楽しく過ごさせて頂きました。参加して頂いた皆様に感謝申し上げます。

### (8) 各種ご寄付の発表

青少年育成基金寄付発表(吉田和弘幹事)

塚田 正幸君(アダム君来訪を記念して)

樋熊 紀雄君

### (9) ニコニコボックス紹介

- ・伴 昭彦君 新会員スポンサーバッジという聞いたことのないバッジを頂きました。
- ・鈴木 滋弥君 JTBさんのお世話で9日日間、北欧の旅へ家内共々行って参りました。一足先に立秋を感じて来ました。
- ・金親 顯男君 新発田城南RCの尾田さんの訪問を歓迎して。私が50歳の時、初めてRCに入会した時、新発田でお世話になりました。
- ・石本隆太郎君 去る8月25日会員増強の卓話に使用した資料コピー代を会員増強委員会費より支出して頂きましたので、その分ニコニコさせていただきます。

### (10) 表彰

- ・鈴木 滋弥君へメジャードナー レベル1 感謝状贈呈
- ・高橋 康隆君へ米山功労者第14回メジャードナー感謝状贈呈

### (11) 会員スピーチ「ロータリーもいろいろ」

SMBC日興証券(株)新潟支店長

中山 康君

(12) 本日の出席率 73.96 %

会員数99名(出席免除会員 9名)

出席者71名(出席免除会員6名を含む)

(2週間前メーク後 84.04 %)

9月22日は祭日に例会を開催致しません。

次回例会は9月29日

会員スピーチ「好きこそものの上手なれ」

株式会社ミタカ

取締役副社長 秋山博一君

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>